

空き家実態調査の結果概要

空き家実態調査の結果概要

調査の目的

前回の実態調査から5年が経過し、町内の空き家の実態も変わってきているため、改めて調査を実施し、現状を把握する。また、空家等対策計画の改定の基礎資料を得ることを目的としている。

調査の方法

水道の閉栓情報を基に、空き家と思われる建物を抽出し、現地調査を実施した。

前回からの変更点

前回

0m^3



今回

$0\text{m}^3 + 6\text{m}^3$

維持管理のために閉栓していない空き家もあり、近隣住民から寄せられる相談には、前回調査では把握できていない空き家も多かった。

閉栓(0m^3)に加え、6ヶ月で 6m^3 以内の使用があった物件も対象とした

空き家の総数



前回調査と比べ、空き家と思われる建物の総数は約2倍となったが、抽出条件を変更したことが増加してしまった要因である可能性が高い。

ただ、所有者アンケートでは「建物を常時使用しなくなったのはいつか」という項目では「1年未満」「1年以上5年未満」と回答した所有者が103名となった。このことから、空き家が増加していることがうかがえる。

空き家の総数（地区別）・空き家率

地区名	空き家数	家屋数	空き家率
一色地区	31	309	10.0%
緑が丘地区	13	706	1.8%
百合が丘地区	83	1,132	7.3%
富士見が丘地区	63	1,222	5.1%
松根地区	3	152	1.9%
中里地区	33	954	3.4%
二宮地区	163	2,832	5.7%
山西地区	120	2,318	5.1%
川匂地区	11	239	4.6%
合計	520	9,864	5.2%

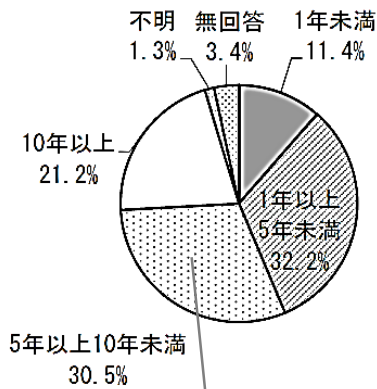
地区別の空き家総数・空き家率は上記のとおりであった。空き家の総数は二宮地区が最も多かったが、空き家率では一色地区が最も多かった。

所有者意向調査結果

一部抜粋

相続関係が最も多い。

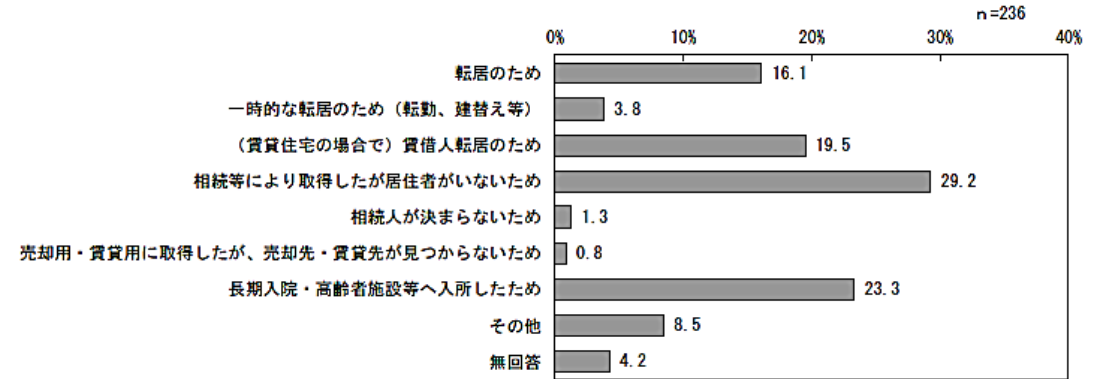
問7 対象の建物を常時使用しなくなったのはいつからですか。



選択肢	回答数 (人)
1年未満	27
1年以上5年未満	76
5年以上10年未満	72
10年以上	50
不明	3
無回答	8
総計	236

1年以上5年未満が最も多い。
問8の理由（相続関係）からも、高齢化の影響が考えられる。

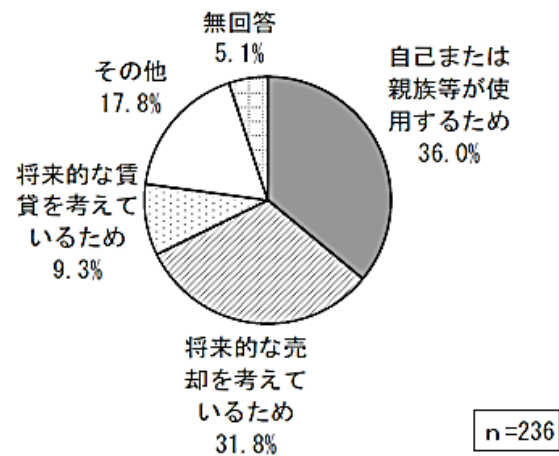
問8 対象の建物を常時使わなくなった理由はどのようなものですか（いくつでも）。



選択肢	回答数 (人)
転居のため	38
一時的な転居のため（転勤、建替え等）	9
（賃貸住宅の場合で）賃借人転居のため	46
相続等により取得したが居住者がいないため	69
相続人が決まらないため	3
売却用・賃貸用に取得したが、売却先・賃貸先が見つからないため	2
長期入院・高齢者施設等へ入所したため	55
その他	20
無回答	10
総計	236

所有者意向調査結果

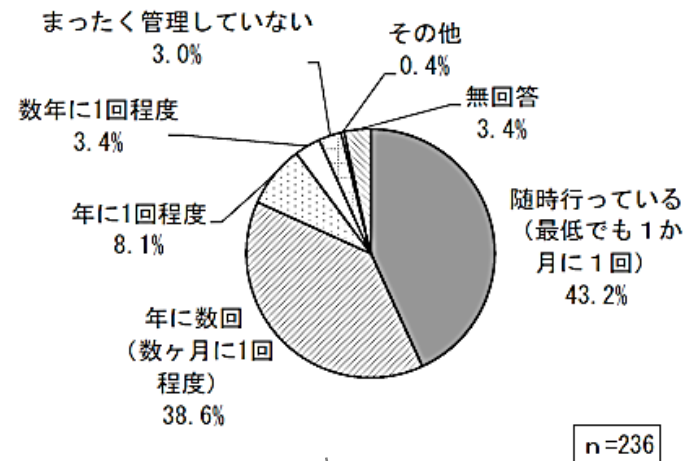
問9 使用頻度が少ないまま保有する理由はどのようなものですか。



選択肢	回答数 (人)
自己または親族等が使用するため	85
将来的な売却を考えているため	75
将来的な賃貸を考えているため	22
その他	42
無回答	12
総計	236

自己又は親族等が使用するがもっとも多い。使用するまでしっかり管理してもらうことが大切。

問11 維持管理はどのくらいの頻度で行っていますか。

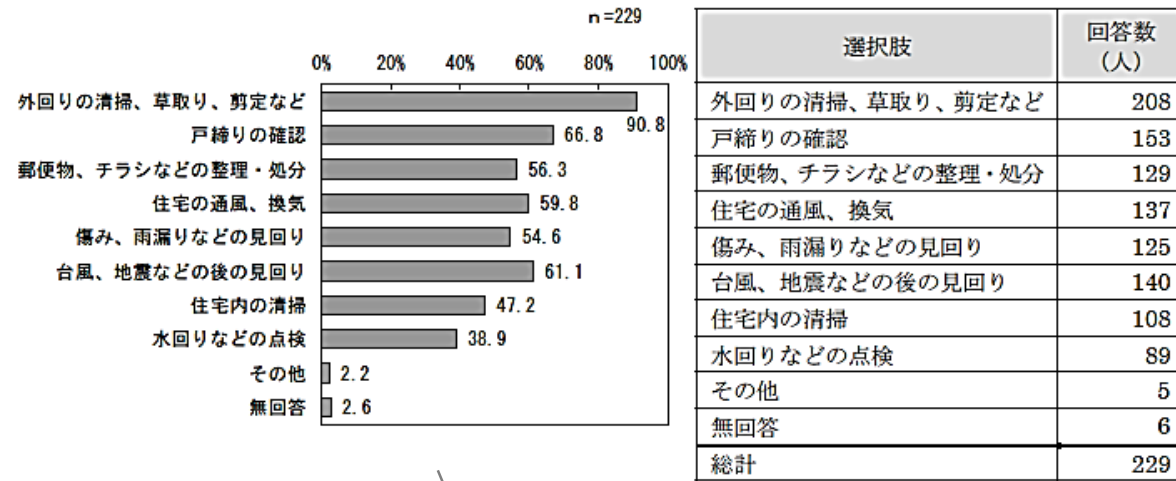


選択肢	回答数 (人)
随時行っている (最低でも1か月に1回)	102
年に数回 (数ヶ月に1回程度)	91
年に1回程度	19
数年に1回程度	8
まったく管理していない	7
その他	1
無回答	8
総計	236

随時行っている人が半数以下。引き続き啓発が必要。

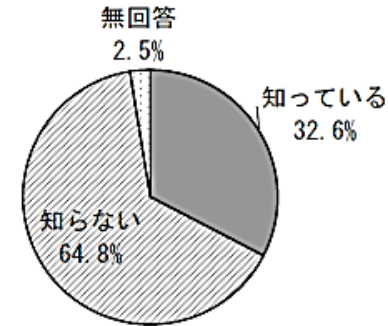
所有者意向調査結果

問 12 対象の建物の維持・管理はどのようなことを行っていますか（いくつでも）。



近隣に迷惑がかかりやすい外回りは比較的管理されている。

問 19 空き家のリフォーム補助・解体補助制度を知っていますか。



納税通知書等に案内を同封したが、周知が足りていないことがわかる。見せ方の工夫が必要。